

全学年対象 I 時間目

1. 題材:「ねらいの共有と魅力再発見(よさがし)」

2. ねらい

・この学習のねらいを理解し、5 時間の見通しを持って活動ができるようにする。

・友達と互いのよさを伝え合う活動をとおして、自己や他者に対する肯定的な見方ができるようにする。

3. 準備するもの タブレット、名簿(1人1枚)、筆記用具

4. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10)	(1) 活動のねらいを具体的なイメージが持てるようにイラストやパワーポイント等を用いて共有する。 (2) 事前に行ったアンケートの結果について提示する。(グラフなどで視覚化するとわかりやすい) (3) 目標の確認をする。 「友達の力をかりて、自分のよさを再発見しよう。 友達のよさや魅力、頑張っていることを全員に伝えよう。」	・学級スローガンなども活用しながら、「困ったりしたときに支え合える」「仲間と関わることで考えを広げる」ために活動するというねらいを教師と生徒が共に持てるようにする。 ・事前の活動として「自分にはよいところがありますか?」というアンケートを実施しておく、より自分事として活動できる。
展開 (30)	(4) 友達の見方と比較するために、自分のよさだと思うカードを選択し、提出ボックスに提出する。 (5) ゲストティーチャー(実践時は学年主任)のよさだと思うカードを、その人に向けて送信する。 (6) 受信した後、ゲストティーチャーから感想を述べてもらう。その様子を見ていた生徒からも感じたことを発表してもらう。 (7) 名簿にチェックしながら実際に活動を行う。(人数や実態に合わせて活動時間を決める。) (8) カードを一括受信し、自分が選んだカードと友達から送ったカードを比較し、感じたことや気づきをペアで伝え合う。	・ミライシード・ロイロノートのなどの学習アプリで実践可能。 ・言語化が苦手な生徒がスムーズに活動ができるように、教師があらかじめカードを作成しておく。自由記述カードを準備しておく、多様な意見が出る。 ・内面的なよさについてのカードも作成しておく、新たな気づきが生まれる。 ・送られたカードは、最後一括受信することで生徒の好奇心を高めるようにする。
終末 (10)	(9) アンケートフォームを用いて振り返りを行う。(本時では Google Form を使用) (1) 今日の活動をとおして、自分のよさを改めて知ることはできましたか。 (2) 今日の活動をとおして、友達のよさを考え、伝えることができましたか。 (3) 楽しんで活動できましたか。 (4) 自分の考えや気持ちを言葉で表現できましたか。(ミライシードのカードの送信や気づいたことを周りと話し合ったとき) (5) 自分の考えと友達の考えを比較し、自分の考えの幅を広げることができましたか。(自分が選んだカードと友達から送ってもらったカードを見比べたとき) (6) 今日の活動をとおして、気づいたことや感じたこと、感想などを教えてください。(自由記述欄) ※2時間目以降も、同様の内容で下線部のみ本時の学習活動に変えて振り返りを行った。 (10) 送信された振り返りから生徒の気づきや感想、授業の様子などを価値づけする。	・その場で生徒の記述内容を価値づけるようにする。

全学年対象 2時間目

1. 題材:「あなたはどっち派!?～自分の選択肢を増やそう!～」

2. ねらい

自分の考えや意見を伝え合う活動をととして、多様な意見に触れることで、自己の思考を広げることができる。また、自己の考えを大切にしようとする思いを育む。

3. 準備するもの タブレット

4. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10)	(1) 1時間目の振り返りなどを用いて、前時の活動に価値づけする。(取り組んでいる写真があるとイメージしやすい) (2) 目標の確認をする。 「悩んだり、困ったりしている友達のために!自分の考えや感じ方を伝えよう。 友だちの感じ方や考え方を知り、自分の考えを広げよう。」 (3) アンケートの結果に触れながら、本時の活動の見通しを持たせる。 1人で考えていると不安になる。心の元気がなくなる。本時では悩める友のために自分だったらどうするかを伝え合う。仲間の考えを広げる。それぞれの考え方が違って当たり前。等。	・事前の活動として「学校生活で不安なことや悩んでいること、友達に相談してみたいことはありますか。(学習・生活・進路)」というアンケートを実施しておく。名前を出してよいか、匿名で出してよいかもたずねておく今後の授業で扱いやすい。 ・安心して活動に入ることができるように、教師の思いを伝える。
展開 (30)	(4) 学習についての悩みについて、説明をしながら実際に活動を行う。提示された 4 つの選択肢から自分の立場を選び、その理由を付箋で貼りつけていく。 〈本時の例〉 勉強に集中できず、目移りしてしまうとき、みんなはどうしてる?(帰るとスマホを手にとってしまう…スマホに目移り…も多かったよ!) A:原因を封印する B:誰かに見張ってもらう C:気合 D:その他 (5) 理由を読み合い、付箋に「いいね」などのリアクションをする。その後、それぞれの付箋を読んで感じたことや気づいたことをペアやグループで述べ合う。(全体で気づきを共有してもよい) (6) 生活や進路についても同様に行う。どちらから先に活動するかは生徒に選択させる。 〈本時の例〉 生活:友達とのすれ違いが多い…挨拶をしたら返事が返ってこなかった。みんなならどうする? A:気にしない B:もう一回挨拶をする C:その子と距離をとる D:その他 進路:将来の夢はまだ決まっていないけれど、高校ではスポーツを優先してもいいのか悩んでいる。 A:学習優先! B:スポーツ(部活)優先! C:どっちもまず頑張る D:その他	・同じ選択肢を選んでいても、理由や考え方が違うことに着目させ、自分の考えを大切にしていいることを伝える。 ・教師もリアクションをして、「なるほど」と思った理由や考え方について言及してもよい。その際、全員にリアクションが付いているかなどにも配慮する。 ・トピックの内容によっては、生徒に匿名で付箋を貼るか委ねてもよい。本心を語ることを優先させたい。
終末 (10)	(9) アンケートフォームを用いて振り返りを行う。(本時では Google Form を使用) (10) 送信された振り返りから生徒の気づきや感想、授業の様子などを価値づけする。	・その場で生徒の記述内容を価値づけるようにする。

全学年対象 3時間目

1. 題材:「ブレインストーミング～友達のをかりて、解決のアイデアをゲット～」

2. ねらい

仲間の悩みについて、解決に向けたアイデアを出し合う活動をととして、様々な見方・考え方があることを知り、自己の思考を広げることができる。

3. 準備するもの 可動式ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、板書カード、タブレット

4. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10)	(1) 前時の振り返りや写真などを用いて、前時の活動に価値づける。 (2) 目標の確認をする。 「悩んだり、困ったりしている友達のために解決のアイデアをたくさん伝えよう。」 様々なアイデアを聞いて、自分の考えの幅を広げよう」	・人によって考え方が違うこと、相談することできさまざまな見方ができること、心が軽くなることなどの関わるよさを伝える。また、一人一人のアイデアが仲間の支えになることを伝える。
展開 (30)	(3) 教師の悩みを示し、本時の学習活動の内容とルールを確認する。 実現可能・不可能関係なく・自由奔放・質より量・批判厳禁 (4) 教師の例に対して、班ごとに解決のアイデアを考え、5分間でできるだけたくさんホワイトボードに書き込んでいく。 (5) 班ごとに解決のアイデアを発表してもらい、グループで感想や気づきを共有し合う。 (6) 3つの事例を出し、課題解決のアイデアを考え、ホワイトボードに書き込んでいく。 〈本時の例〉※2時間目のアンケートに記載されていた悩みを使用した。 ①実力テストもあるし、定期テストもある…テキストやワークを一番効率よく進めて、力になる学習をしたいので、アドバイスをください!! (学習) ②行きたい高校や進路があるのに、親に反対されてしまう。何とか説得したいので、アドバイスをください!! (進路) ③大会の時に、緊張していい動きができない。地区大会、ベストパフォーマンスをしたいので、アドバイスをください!! (生活) (7) 各班のリーダーは、ホワイトボードの写真を撮影し、クラスの共有フォルダにアップする。	・安心して発言できる雰囲気を作るために、ルールをしっかりと共有したい。また、板書しておく生徒も意識しやすい。 ・教師が中学校時代に体験した悩みだと、生徒は身近に感じて活動に取り組みやすい。 ・気づきを共有するときには、「自分ならどうするか」という視点や思いつかなかったアイデアなどを述べ合うようにする。 ・生徒たちに好きなトピックを選ばせてもよい。時間があれば、2つめのトピックに移る。 ・教師は各グループを周り、出されている意見に対して、「なるほど!」「いいね!」「おもしろい!」「よく思いついたね!」などの肯定的な言葉掛けを行い、生徒が不安なく意見を出せる雰囲気を作る。 ・画像を共有することで、後から見返すことができるようにしておく。また、時間があれば、各班の写真を見てから振り返りに移るとよい。
終末 (10)	(8) アンケートフォームを用いて振り返りを行う。(本時ではGoogle Formを使用。) (9) 送信された振り返りから生徒の気づきや感想、授業の様子などを価値づける。	・その場で生徒の記述内容を価値づけるようにする。

全学年対象 4時間目

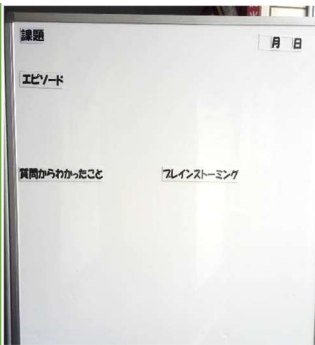
1. 題材:「ホワイトボードミーティング～みんなで作戦会議!W・B・M～」

2. ねらい

仲間の悩みについて、その背景や状況について理解し、解決に向けたアイデアを出し合う活動をとおして、様々な見方・考え方があることを知り、自己の思考を広げることができる。

3. 準備するもの 可動式ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、板書カード、タブレット

4. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10)	(1) 前時の振り返りや写真などを用いて、前時の活動に価値づけする。 (2) 目標の確認をする。 「いつも支え合うために!その悩みの背景をもっともっと知り、具体的な解決のアイデアをたくさん伝えよう。自分の考えの幅を広げよう。」	・人によって考え方が違うこと、相談することできさまざまな見方ができること、心が軽くなることなどの関わるよさを伝える。また、一人一人のアイデアが仲間の支えになることを伝える。
展開 (30)	(3) 本時の学習活動・ルールを確認する。 実現可能・不可能関係なく・自由奔放・質より量・批判厳禁 (4) 前時で扱った、教師の例に対して、状況や悩みの背景を探る質問をペアで考えさせ、全体で質問させる。 (5) 質問から分かった情報をもとに、解決のアイデアを考えることを伝える。また、ホワイトボードミーティングの手順をスライドで提示する。 (6) 各班の悩み提供者を中心に、ホワイトボードミーティングを行う。 〈学習活動の提示例〉 ①目標の確認(悩みの確認) ②悩んでいる友達がその状況を話す(3分) ③質問タイム(3分)※ここで少しでもうまくいっている場合はないかを必ず聞いてみよう! ④解決策を出し合うブレインストーミング(5分)ここ大事!! ⑤どれを実践してみたいかを相談者が決める(3分) ⑥班員みんなで一人一言感想を述べ合う。(3分)  〈ホワイトボードのレイアウト〉 (7) 悩み提供者は、ホワイトボードの写真撮影し、クラスの共有フォルダにアップする。 (8) 各班のホワイトボードを見る時間を設ける。	・安心して活動に参加できるように、話し合いのルールを再確認し、板書しておく。 ・各学習活動の時間については、生徒の実態を踏まえながら事前に決めておく。 ・時間で区切り、次に進むことが大切であるため、生徒が活動に慣れるまでは、ファシリテーターとタイムキーパーは教師が行うとよい。 ・教師は各グループを周り、出されている意見に対して、「なるほど!」「いいね!」「おもしろい!」「よく思いついたね!」などの肯定的な言葉掛けを行い、生徒が不安なく意見を出せる雰囲気を作る。 ・感想を述べ合う際には、自分だったという視点で述べ合うことで、相談者だけではなく参加した生徒が話し合いで学んだという実感を持つことができる。 ・画像を共有することで、後から見返すことができるようにしておく。
終末 (10)	(9) アンケートフォームを用いて振り返りを行う。(本時ではGoogle Formを使用。) (10) 送信された振り返りから生徒の気づきや感想、授業の様子などを価値づけする。	・その場で生徒の記述内容を価値づけるようにする。

全学年対象 5時間目

1. 題材:「ミカタのミカタ～リフレーミング～」

2. ねらい

自分の短所が見方を変えれば長所であることを知り、自分や他者に対する見方・考え方を広げ、自己肯定感を高められるようにする。

3. 準備するもの 可動式ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、短冊（青とピンク）、タブレット

4. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10)	(1) 前時の振り返りや写真などを用いて、前時の活動に価値づける。※相談者の生徒に、アドバイスをもらったその後について、どうだったかをたずねてもよい。 (2) 教師がリフレーミングしてもらった経験について話すことで、本時の活動のイメージを共有し、目標を確認する。 ①友達が短所だと思っていることをみんなの力で3つ以上の長所に変えよう! ②友達の力をかりて、自分をポジティブに捉えよう。	・教師やゲストティーチャーが、自分の短所や経験などを自己開示することで、生徒自身も安心して活動ができるような雰囲気づくりを行う。
展開 (30)	(3) 短所辞典ワークシートの中から、ゲストティーチャー（学年主任）に短所を選んでもらい、リフレーミングする。（生徒は班の形になり、リフレーミングした言葉をピンクの短冊に2分程度で記入する。その後例示用のホワイトボードに貼りつける。） (4) 短所辞典ワークシートから、自分の当てはまる短所を全て探し、特に…と思うものについて、3つにしばり青い短冊に書く。（5分） (5) それぞれの短所が書かれた短冊をホワイトボードの左側に貼りつけ、似ているものや同じものを整理する。（2分） (6) ピンクの付箋に、リフレーミングした言葉を書く。（5分）思いつかない生徒には、ヒントカードを準備しておく。 (7) ホワイトボードの右側に貼りつけていく。みんなのカードが出そろったら、カードが書けていない項目について、アイデアを出し合う。（7分） (8) Teams の学級活動のフォルダに班のリフレーミング画像を提出する。 (9) 気づいたことや感想を班の中で話す。数名に発表してもらう。	・たくさん見方があることを価値づける。 ・ゲストティーチャーの参加が難しい場合には、教師の短所を示し、デモンストレーションしてもよい。 ・時間については、生徒の実態を踏まえながら事前に決めておく。リフレーミングに時間をかけることが大切であるため、延長等はせずに区切る。 ・教師は各グループを周り、つまづいている生徒がいたら、ヒントカード（リフレーミング辞典）等を準備しておき一緒に考えることができるようにする。 ・時間があれば、各班のホワイトボードを見合う時間を取ると、さらに生徒の見方・考え方が広がる。
終末 (10)	(10) アンケートフォームを用いて振り返りを行う。（本時では Google Form を使用。） (11) 回答の生徒の記述などを用いながら、振り返りを話す。	・その場で生徒の記述内容を価値づけるようにする。 ・教師が成果だと思われることを事前に考えておくことよい。また、写真等も見返すことができる、生徒が活動を思い出しながら振り返りを行うことができる。